

~海外から日本へ~
**大阪の高校に学ぶ
 若者たち Vol.19**

season **2**

海外から来日、帰国して学ぶ高校生。
 複眼的な視野をもつ彼らが
 毎号1人ずつ登場します。

(協力: NPO法人 おおさかこども多文化センター)

私は、中3の時、日本の大阪に来た韓国人留学生です。初めはうまくなじめるか心配でしたが、友だちは親切で学校も居心地がよく楽しいです。その中で真っ先に声をかけ手を差し伸べてくれた友だちがいます。授業開始前、早朝から一緒に予習してくれたり、遅くまで学校の図書館でその日の復習を翻訳してくれたり、試験時には教科書の翻訳本まで作ってくれました。週末には美味しいお店に行き、日本語と日本文化をたく

(アンニョンハセヨ^^)

안녕하세요!

こんにちは!



プロフィール

金甫泳(キム ポヨン)
 (韓国)

私立高校1年生
 好きなこと: K-popダンス、
 記事を読むこと

さん教えてくれました。人生でこのような友だちと会えたのは最大の幸運だったと思います。私は日本で真の友だちの意味を見つけたみたいです。

私は将来、多くの国の言語を習って世界の様々な文化を知り、より多くの人々とコミュニケーションをとりながら、考え方を交わし合いたいです。そして世界に役立つ人間になりたいです。



取材を通してボランティア活動に参加するきっかけとなることも

ときどき「記者」体験記 ⑧

情報誌COMVOのボランティア市民記者

ときどき「記者」森本登美子

として活躍するときどき「記者」。
 どんな人が取材して書いているの？
 ボランティアの素顔を知れば
 自分との共通点が見つかるかも。



3年前、神戸から大阪に引っ越してきました。阪神・淡路大震災を経験したこともあり、暮らしている街に恩返しをしたいという気持ちを持つようになりましたが、何をすればよいかわからなかった時、情報誌COMVOに出会いました。

すが、勇気を出して一歩踏み出すと、今まで知らなかった事を知る貴重な機会を得ることが出来ました。

「ときどき「記者」で楽しそう！と記事など書いた事も無かったので

今の地域社会で起きていることに心を寄せて、活動を続けておられる方々のお話は人への愛情に溢れその包容力や信念に心を打たれます。この素晴らしさを紙面で伝えるべく、一生懸命にそのことについて考えることが自分にとっても大切だと感じています。周りの方に助けて頂きながら、出来る範囲で「ときどき」記者になれる喜びを体感しています。

昨年(2016)で取材に訪れた「タオル帽子」の活動にも「ときどき」に参加させて頂くことになり、こんな風に出会いが繋がることもとても有り難く嬉しく思っています。



タオル帽子